

第3回 守口市まち・ひと・しごと創生委員会 議事録

日 時 : 平成27年12月3日(木) 10:00~11:50

場 所 : 守口市議会第2委員会室

出席委員: 11名

眞鍋昇委員、赤堀彰則委員、石井貴委員、大谷英理子委員、佐竹雅幸委員、
瀧川光治委員、吉岡典昭委員、宮本一彦委員、南口哲也委員、長谷川敦子委員、
中堀恭平委員

欠席委員: 2名(山口行一委員、岩佐聖二委員)

傍聴者 : 2名

◎委員長 ○委員 ●事務局

I. 開 会

1. 委員長挨拶

◎委員長

定刻となりましたので、「第3回守口市まち・ひと・しごと創生委員会」を開催いたします。委員の皆様にはご多忙の中、ご参集いただきありがとうございます。議事に入る前に、事務局より本日の出席委員数の報告をお願いします。

●事務局

本日は、委員定数13人中11人が出席です。

◎委員長

ただ今事務局から報告があったように、委員会条例第5条第2項の規定に基づいて、定足数に達しているため、この委員会は成立しています。

2. 前回の議事録について

◎委員長

まず、前回の議事録についてです。本日委員は欠席ですが、委員から若干の改訂をお願いしたいという連絡がありました。その点について、事務局から説明をお願いします。

●事務局

(議事録の訂正について説明)

◎委員長

委員の皆様はよろしいでしょうか。

○委員全員

(異議なし)

◎委員長

それでは、そのように改訂をお願いします。

他に、ご意見はありませんか。特にないようなので、これを前回の議事録としてお認めいただいたということで、よろしくをお願いします。

前回お願いしました南口委員と中堀委員に、署名委員として署名いただき、改訂した議事録を決定版とさせていただきます。

II. 議題

議題 1. 意見交換

(1) 「守口市人口ビジョン」に関わるご意見について

◎委員長

今までの皆様のご意見を、類型別などにまとめさせていただきました。本委員会としましては、皆様との発散型の意見交換を通してご意見を頂戴しました。これを参照して市長への答申案を作るために、今回整理を行うとともに、今回の意見交換を行いたいと思います。なお、今回の議事録は活発な議論をいただくために、最終的に各委員名を伏せて公開しますので、活発な議論をよろしくをお願いします。

●事務局

(「守口市まち・ひと・しごと創生委員会」 第1回・第2回のご意見のまとめ(案) と第3回でお聞かせいただきたいこと」説明)

◎委員長

多面的に様々なご意見をいただきましたが、もう少し整理したいと考えています。まず、「1. 『守口市人口ビジョン』に関わるご意見」についてです。「守口市の立地や生活利便性に魅力を感じる『家族』は、どのような世帯でしょうか」について、ご意見をいただきたいと思います。委員は不動産関係にお詳しいですが、いかがですか。

○委員

前回申し上げたことと異なる部分があるかもしれませんが、結婚して間もない世帯や子どもが小さい世帯にとっては、利便性が第1条件になります。前回の議論にもありました

が、そのような人が交流しやすい集合住宅の供給が比較的少ないというご意見もあったと思います。

◎委員長

若い人が購入する場合、お金の面も関係しますが、委員はお金を貸す立場としていかがですか。

○委員

不動産の一次取得者で、最近ダブルインカムで夫婦で働いている世帯が多いことを考えると、2人の年収で返済できる価格帯の物件をいかに供給するかです。現在、大阪市内の中心地のマンションは、坪単価が約200～300万円です。20坪で4,000万円の物件は、一次取得者のサラリーマンにとって、今後子どもができて教育費がかかり、奥さんがいつまで働けるかなどの将来設計を考えると、購入は難しいです。住居という面では、そのような人に絞った価格ゾーンの物件を供給することも大事です。

地元で暮らして地元で働いている人は、駅までの距離より勤務地までの距離を重視します。大阪市内に通う人は、通勤のことを考えると駅前が便利です。まちづくりとしては、駅周辺にもう少し様々なことが集積するような、体積が高いものが必要です。便利な所から離れると低層の建物になり体積が減ると思いますが、買物などを考えると、そのようなまちづくりが必要です。そこで子育て支援も行い、「守口市は待機児童の心配はありません。夫婦で安心して働いてください」と言えるものがあり、土地も大阪市と比べてそれほど高くなければ、若い世代にメリットを感じてもらえ、それが強みになります。

実際に、私が結婚して住む場所を決めるときには、「子どもの医療費は何歳まで無料か」などを考えました。まだ20歳半ばだったので、「ここで結婚して子育てをするにあたって、市町村の手当はどのくらいあるか」を、当時それなりに調べました。若い世代に住んでもらい、子どもを産んで育ててもらうためには、支援策で足りないものを補完して、PR不足のものはPRして、まちづくりと絡めて行う必要があります。人口が増えているまちとそうでないまちでは、住居の供給、行政の補助が異なったり、また、行ってもアピールの仕方が異なるのだと思います。

◎委員長

30年以上前の話ですが、私が民間企業で働き始めた頃は、若い人は5～10年間社宅に住み、貯金して家のことを考えるケースが多かったです。最近は、会社もスリムになって社宅にお金を使わなくなっています。それほど収入が上がっていない若い人が、物件を購入するとなると、価格が厳しいです。

○委員

利便性と価格は相関関係にあって、便利なところは価格が高いです。

◎委員長

前回、アンケート結果の概要の紹介があり、子どもができると転出する傾向があるということでした。交通の便がよいので、とりあえず住むにはよいのですが、共働きで子どもをもつと、子どもの世話は誰がするのかという問題がでてきます。委員が言われたように、あちこちに保育園を作ることが理想ですが、それが難しいなら、交通の便がよいところに子どもを預けて、帰りに迎えに行くことができればよいと思います。

○委員

アンケート結果から、若いうちは賃貸マンションに住み、物件を購入する際に、守口市外を選択する人が多いことが出ています。その人たちに選んでいただけるものをしていく必要があります。

◎委員長

委員は、子育ての専門としていかがですか。

○委員

ベネッセの調査によると、保育園や幼稚園の選択基準は、幼稚園は、利便性、園バスがある、給食があるなどの保育・教育内容で、これらのニーズが高いです。保育園は、待機児童が多い地域では「どこでもよい」という状況ですが、選択されるのは駅に近いところ、自宅に近いところです。バスで行かなければならない園より、駅周辺の園で待機児童が多いです。園ごとの待機児童の数を見ると、駅の近くやマンションの近くであることが見えてくると思います。

(2)「守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関わるご意見について

①地方創生の基本的な考え方について

◎委員長

「大切にすべき考え方・価値観」や「キーワード」、「地方創生にあたって、活用することが考えられる資源や、活用方策」についてご意見をお願いします。

○委員

このような取組は高槻市、摂津市を始め、どこでもやっています。どこも同じようなコンセプトで、検討課題に対してどうするかを議論しています。そのため、打ち出しとしては、明確に特徴的なものを出さなければ埋もれてしまいます。

この短時間でも出てきたように、守口市の特徴は、アンケート結果から明らかに、「〇〇

に便利」と「便利」が一番のキーワードとなっています。「便利」はキーワードであると同時に、それを打ち消すようなネガティブな意味もあります。打ち出し方としては、「利便性」を出していくことが大事だと思います。先ほど、「駅近」という話がありましたが、私は、高槻市の山の上に住んでおり、駅まで車で10分、バスで15～20分かかります。私から見れば、守口市の立地は、どこからでも鉄道やモノレールの駅に行けるという利便性が、非常に魅力的です。平地なので自転車でも移動できます。そのような「便利」、「利便性」が特徴です。

私の部下に独身女性がいるのですが、その人が、守口市のマンションを購入しました。「なぜ守口市にマンションを買ったのか」と聞くと、「職場に近い」ということでした。他のキーワードとして、「適度なにぎわい」という言葉がありました。大阪の真ん中という都会ではなく、また田舎でもない、「適度なにぎわい」のあるまちと感じているようです。さらに、「買い物に便利」、「通勤に便利」という言葉もありました。

他にも、守口市に関する意見を聞いたところ、大日駅の地下道を、自転車に乗ったまま、どんどん通る人がいるということです。私は、比較的早い時間に通勤しているのでそれほどでもないのですが、もう少し遅い時間はもっと多いそうです。考えごとをしながら歩いていると、自転車がすぐそばを通り過ぎて、私も何回か危ないことがありました。地下道に、「自転車を降りて歩きましょう」と、たくさん書かれているのですが、その横を自転車が疾走しています。赤い三角コーンを置くなどの対策は取られていますが、駅を降りてすぐのランドマーク的な場所が、そのような状況であることは、問題だと思います。

また、公園が整備されておらず、通るのが怖いということでした。犯罪ということではなく、通り過ぎる人にとって怖いイメージがあるようです。そのようなものを払しょくするためのキーワードが必要です。

利便性の裏にあるデメリットと、利便性というメリットをうまく組み合わせた形で、打ち出すのがよいと思います。また、どちらかを打ち出すのも一つの方法です。

◎委員長

ポジティブなことを発信するという点に強い委員はいかがですか。

○委員

ゆるキャラも決まったため、来年に向けて、ゆるキャラを活用して、「子育てのまち」のイメージを発信していくことが大事だと思います。まちづくり、若者の取り込み、子育てしやすいまちの3つが好循環していくような取組を我慢強く行っていく必要があります。

治安面でも、陰を少なくする、明るい雰囲気をどんどん作る必要があります。高架が多いと暗くなりがちなので、LEDで明るくする、電飾、塗装などで、明るいまち、明るい駅前を作ることが大事です。商店街も、錆びているアーケードではさびれたイメージになります。塗装をやり直すなど、地道に明るいイメージを作っていっていただきたいと思い

ます。

○委員

皆様が、守口市は地の利がよいということを書かれていることから、それがもっともPRできる部分だと思いますが、それ以外にも、よいものを何かPRできればよいと思います。ここにも「守口市も、57番目の文禄堤という守口宿がある」と書かせていただいています。また、「歴史や文化が息づいている、根付いている」という点では、「だんじりがあって人情味があるまち」などが上げられます。名物には、守口大根があります。他市でも、10年も作っていれば昔からあったようになっている名物がたくさんあります。通勤族なので他の地域も見ますが、20年前には聞いたこともなかった「〇〇ラーメン」が5年前から名物になっているなど、半世紀前からあるかのような名物が、他市にも多いです。守口大根がキーワードになるとは思いませんが、何か地域の名物を売り出していければと思います。地域の方は、便利だけでなく、よいイメージを押し出していけるものを沢山感じていると思います。それらを集めたものを系統立ててPRすることが大事です。

まちのにぎわいの観点からは、駅周辺の整備、商店街の活性化、創業で事業所数を増やすなどが必要です。その中の1つの視点として、空き店舗となっている場所を活用して、例えば介護や保育サービス、コミュニティ活動などに関わる利用がされるようになれば、その場所を利用する人が多くなるように思います。高齢者がいれば家族が集まり、保育であれば母親、通勤で立ち寄る人が出てきます。民間だけでなく行政でも、そのようなコミュニティの場所を工夫して商店街に入れていけば、空き店舗対策やにぎわいにつながると思います。他市では、空き店舗に家賃補助をしたり、雇用を補助するなどがありますが、財政に負担をかけない取組方法もあると思います。

◎委員長

人口を増やすことが大きな方針で、若い人の取り込みを考えなければなりません。東京では、富裕層の高齢者用マンションのような老人ホームを作り、その近くに高級スーパーや高級なワインを販売する店ができているところがあります。以前は風紀が悪かった地域なのですが、新しい建物ができると雰囲気が変わってきています。交通の便のよいところは、このように富裕層の高齢者に焦点を当てることも1つの方法です。美術館が近い、中之島ホールに近いところでは、夜にオペラを観に行くなどで雰囲気を変えるのもよいかもしれません。

ネガティブな要素として公園が危ないことに対して、監視カメラをつけるのも1つの方法ですが、交通の便がよいことを利用して、民間の力を借りて高級感が感じられるようなものにしていくのもよいです。パナソニックが最近高級老人ホームを作りましたが、そのようなことも1つの考え方だと思います。

私は四国の田舎出身ですが、40年くらい前は、大阪と言え、よい意味で「あきんどの

まち」で、フットワークが軽く、新しいことをどんどんやるイメージをもっていました。全国には何万というゆるキャラがあるため、今頃になってゆるキャラを作っても、あまりアピールにはなりません。よい意味でのあきんどの的な考えで、儲かることを積極的に考えていくことも必要だと思います。

皆様から、多くの意見やよいアイデアをいただきましたので、まとめていくにも、どれを取り込んでいくか、悩ましいくらいです。外部の人が、歴史に関して東海道五十七次のことを言ってくれていますが、このようなことをうまく取り込むことも必要です。

○委員

「〇〇宿」という、代表者が集まる会合が全国にあり、宿を起点にするまちづくりの取組が全国でなされていると聞いています。

◎委員長

守口市では、そのような活用が甘いと感じています。

○委員

もったいないです。

◎委員長

古くてよい雰囲気のところもあるので、それをうまく発信していくことも大事です。

2頁目に関しては、ただ今のご意見を踏まえて、取りまとめさせていただきます。

②守口市が取り組むべき内容についてのご意見・ご提案について

<若い世代の結婚・妊娠・出産・子育てについて>

◎委員長

前回ご欠席の委員は、いかがですか。

○委員

盛り沢山で十分かなと思います。

◎委員長

総花的ではありますが、専門家の目から見て、市長に対する答申として特にここにより一層力を入れてはどうか、というところをお聞かせください。

○委員

4頁に付け加えたいことがあり、どこに入れようかと思っています。ここでは学力向上

の視点が上がっていますが、学力向上と同時に、子どもの自己肯定感が低いことが問題になっています。自分に自信をもたせて、自己肯定感をいかに育てていくかという取組が大事です。今週土曜日の「世界一受けたい授業」というテレビ番組で、「ほめ言葉のシャワー」を実践している元小学校の先生が出ていました。その人は、「学校が、子どもたちがお互いに認め合う関係作りをしなければならない」と言っていました。そのようなクラス運営をするからこそ、子どもの学力も上がるということです。勉強だけできる子どもではなく、クラスの雰囲気づくり、子どもが尊重し合う関係づくりを大事にしているということです。

子ども同士の関係、大きくなったときには他者を尊重し合う関係が、大きい意味での人権教育にもつながると思います。そのような視点が加わればよいと思います。

◎委員長

子育ての視点で、委員はいかがですか。

○委員

今までに保育所や幼稚園の充実の話が出ましたが、守口市は決して園が少ないわけではないので、質の向上をもう少し頑張っていただきたいと思います。今は公立では、お迎えは18時半となっていますが、残業もあるため、その時間に間に合わない母親も多いです。公立は18時半でどうしても時間が切られてしまいますが、民間には延長保育もあります。支援センターにいるときは、「だから私立に通わせる」という話をよく聞きました。公立も変わらなければ、市民の要求を満たすことはできません。

守口市では、子どもの病後時や回復時には預かってくれるシステムはありますが、病児保育を実施しているところが、かなり少ないです。「病気になったらすぐに迎えに来てください」という保育所のやり方は、母親が就職を考える際に、気持ちを阻む1つの要因になっています。

◎委員長

母親の観点から、保育園と幼稚園を合わせた認定こども園については、どのような印象をもっていますか。

○委員

どちらのよさも生かすという面では、新しい試みとして全国に広がっているようですが、中身はまだまだプラスマイナスがあり、試行錯誤していると聞きます。

○委員

幼稚園では公立でも私立でも、預かり保育として、夕方16時～17時まで一部の子どもを預かる制度があります。10～20年前には、そのような制度はありませんでした。幼稚園に

行かせていても、共働きの世帯やひとり親の世帯には、長時間預かってほしいというニーズがあります。幼稚園も保育所と運営時間は同じになるということから、認定こども園としてスタートして、幼稚園教育に保育所的な機能がプラスされています。

保育所も、以前は、子どもを預かって好きなように遊ばせるものが多かったですが、就学前教育ととらえた場合、小学校に上がったときに学力差が生じてはいけません。保育所における教育のあり方を考えると、幼稚園のよさを入れなければなりません。このようなことから、国は、保育所が認定こども園に切り替わっていくことを推奨しています。保育所として継続するところもあるかもしれませんが、保育所から認定こども園に転換するところが多くなると思います。

待機児童がある間は、どこでも預かってもらえるところに預けます。しかし、待機児童がいなくなれば、お客様である子どもをどのように確保するか、また保育内容をどうするかを考えなければなりません。保育内容の質が問われる時代になります。

補足ですが、昨日マスコミで「何年後かになくなる仕事、残る仕事」が発表されましたが、残る仕事は、コミュニケーション能力が問われるもの、臨機応変に対応が必要なものです。そのようなことから、幼児期や小中学校教育を通してコミュニケーション能力を育てることが重要です。知識獲得だけの学力向上であれば、将来的にコンピュータに置き変わる可能性があります。人間だからということを見ると、幼児教育や保育の質として、いかに子ども同士の人間関係を育てていくかが大事です。小学校になると、教科指導になるため、コミュニケーション能力を育てるのは、行事やクラス運営においてのみになります。学校ではクラスという集団の中での人間関係ですが、社会全体を考えると、大人との付き合い方、他者との付き合い方という視点も、今後もつ必要があると思います。

◎委員長

これは、子どもだけの問題ではなく、母親の労働も表裏一体だと思います。委員はいかがですか。

○委員

妊娠、出産、育児のアイデアは出尽くしていると思います。正社員で働いていない人は、結婚や出産を考えるには、収入面が不安定です。若い層は正社員が増えていますが、男女共に、不本意ながら非正規で働いている人の年代が、40代くらいに上がってきています。40代まで非正規でいると、そこから正社員になるのは現実的に無理です。そのまま年収もそれほど上がらないまま、社会保障があつたりなかつたりの状態が続きます。国も取り組んでいますが、正社員で働くことで様々なことが変わり、人口増にも関わってきます。収入や社会保障の安定があつてこそ、結婚を考え、出産も1人ではなく2人考えることができます。

◎委員長

そのような話になると、答申でどうにかなるものではない、深い話になりますが、おっしゃる通りだと思います。

○委員

1自治体の問題ではありませんが、アンケートでも収入の安定を望んでいる若い層が多いです。自治体としては、商工会議所で、事ある毎に正社員雇用をお願いするなど、少しずつでも行っていただければと思います。

◎委員長

私事ですが、自分の子どもには、親のすねをかじられても困るので、「正社員になってほしい」と言っています。33歳の娘が浜松市で仕事をしていますが、正社員にはなりましたが、結婚していません。「生活が安定しているので、結婚するメリットがない。結婚しないだろう」と言っています。なかなか難しいです。

結婚前は、便利なので守口市に住んでも、結婚して子どもができると近くの市に転出するというアンケート結果があります。子育てを考えると、働きながらも利便性が高いことが必要です。公立でも、うまく民間とコラボレーションして夜遅くまでできるなどの工夫が求められています。これは簡単なことではないと思います。

私が働いている大阪国際大学は、昔から保育士の養成機関で、最近は研修を受ければ保育園でも教育できます。先生や学生に聞くと、得意不得意があるようです。保育園は、教育より子どもの世話が中心で、幼稚園は、専業主婦が多い時代には小学校に上がる前の教育のワンステップというイメージだったと思います。「それらが一体化しても、うまくいくのか」と言う人もいます。自分の子どもは妻に任せきりだったので、今頃になって深く反省しています。個人的な興味もあって、委員にお聞きしました。

○委員

賛否両論あるかもしれませんが、国が定めている幼稚園教育要領があり、保育士には保育指針があります。そこに記載されている内容は、ほとんど同じです。それをどのくらい遵守しながらやっていくかです。公立幼稚園は、主体性を大事にした教育ですが、一部の私立幼稚園では、早期教育として学力を先取りして取り組んでいます。世間の教育のイメージは、その部分です。保育所は、主体性と生活をいかに大事にするかに取り組んでいます。本来国が求めている基準は同じなのですが、運用レベルで異なってきます。

多くの自治体で、このような会議とは別に、就学前教育の共通カリキュラムや小学校との連携カリキュラムを策定して、公立、私立問わず、その自治体の中でどのように子どもを育てていくかを検討しつつあります。しかし、決まったとしても運用レベルになると、また、個々の問題が出てきます。

教育委員会として既にやっているかもしれませんが、守口市として就学前カリキュラムや小学校との連携カリキュラムで、幼児期に何を育てたいかを、明確に周知徹底していく取組が求められると思います。

◎委員長

幼稚園は文部科学省が所管し、保育園は厚生労働省が所管していることから、それぞれで考え方が異なる部分があるのではないかと思います。例えば、食品安全に関わる審議会に参加している時も、食品の安全性に関して厚生労働省と農林水産省とで考え方が異なるように感じることもありました。新しくできた認定こども園は別ですが、保育園のことについては、教育委員会はこれまではあまり意見を言わなかったのではないかと思います、いかがですか。

○委員

それをどのように考えるかです。今は、市役所は保育・幼稚園課になっています。入口の窓口は1つで、教育委員会がどのように保育所を取り込んで、教育という面での研修や支援をしていくかは、自治体レベルで問われていくと思います。

◎委員長

守口市が全国に先駆けて、例えば英語のアルファベットの歌を歌うなど、保育園でも新しい教育を積極的に行うことも考えられます。

○委員

福井県が幼児教育支援センターとして、公立、私立の幼稚園、公立、私立の保育園の総合的な教育センターを作っています。そこに指導の専門官を配置しています。しかし、自治体レベルでそれをやるには人材がいいため、大阪市でもまだ分かれています。もし幼稚園園長経験者や保育所所長経験者が、同じ部署で教育センター的な役割をすれば、小さい自治体ながらも、「このようなことに力を入れているのか」と思ってもらえる、魅力ある取組になると思います。

◎委員長

委員はいかがですか。

○委員

本日の日経新聞で、このテーマについて記載されたコラムがありました。「自治体の子育て世代を呼び込むことについて、どのように考えているか」を調査したものでした。その結果、「子育て世代は、納税や消費の担い手である半面、保育所設備等の財政負担にもなる」

ということでした。1都3県の主要地区、全国の政令都市に「他地域から子育て世代の転入を呼びかけたいか」という質問をしたところ、「呼びかけたい」が合わせて65%でした。

「積極的に呼びかけたい」と回答した中に、京都市があります。これは、「東京一極集中を防ぐためには、子育て世代の流入が必要」ということで、住宅支援を行いたいというものでした。「どちらかといえば呼びかけたい」と回答した中で、仙台市は、「一極集中は望ましくないが、次世代育成は重要だ」ということでした。「どちらでもない」が21%でした。例えば新宿は、「子育てしやすいという評価を得るのは喜ばしいが、待機児童増加が直接要因となる」ということでした。つまり、財政的な要因が、裏腹となるということです。千葉県流山市は、積極的な行政改革で、どんどん増えているということです。「表向きに呼びかけているが、増えすぎても困る」ということが書かれていました。

このような問題は、国レベルで考える話と、自治体で考える話があります。自治体の中でも、様々なレベルで考えるべき問題点があります。あれこれ枝葉までPRするのもよいですが、打ち出すときには、「待機児童が少ない」、「幼児医療が整っている」など、若いカップルが子どもを産もうと考える条件は何かを考えたいうえで、その条件に合うものを「目指します」、「合っています」などと、打ち出すのがよいと思います。

フランスやスウェーデンなどの先進国の出生率が2.0まで持ち直したということですが、国家レベルのお金は、GDPが3%くらいにならないと実現できません。日本が欧米並みに実現するためには、さらに約十兆円の財源が必要と言われていています。国が大きく舵を切ったので、それと連動しながら自治体としての立ち位置で何ができるかに絞ることが必要です。あれもこれも全部行ってもよいですが、打ち出し方は、「ここに集中する」と焦点を絞るのがよいと思います。

◎委員長

国全体でやると、守口市で起こっていることはそのままになる可能性があります。つまり、若い人が門真市に流れているとして、国全体で取り組むと、門真市がもっとよくなって、より守口市から流れるだけではないかと懸念されます。たこ焼きの屋台が5店並んでいる場合、守口市が「チーズ味のたこ焼きを先駆けて売ってみよう」と工夫しなければ、現状は変わりません。前回の会議でも、守口市は、先進的に小さい子どもに対する金銭的なサポートに取り組んでいますが、それが表に伝わっていないという話がありました。あまりお金をかけずに、広報をうまくすれば今のままで何とかなると思いがちです。しかし、認定こども園についても、「昔の保育園で教育もやります」、「英語の歌を歌います」などを表に出して、このまま守口市に住んでも教育を安心して受けることができると分かってもらえれば、若いお母さんに子どもができた場合、10人のうち1~2人は残ってくれるかもしれません。委員が言われるように、10人すべて残ると困るかもしれませんが、1~2人残ってくれば丁度よいのではと思います。

○委員

この分野では、「魅力ある保育サービス」、「魅力ある保育内容」、「魅力ある子どもを育てる」などがキーワードになると思います。

◎委員長

何においても量と質が問題になります。保育所を増やすことも量です。委員が言われたように、数は十分あるとすれば、次は質をどのように高めていくかです。時間を長くすることも、1つの質です。利用者から見れば、遅くまでみてもらえるという質です。また、保育内容、教育内容を高めることも質です。それを若い人にきちんと伝えることができれば、「同じマンションを買うなら、この近くで買おう」という考えにもなるかもしれません。

<安心・快適・便利に暮らせる生活環境の整備について>

◎委員長

多面的で総花的ですが、新たに見ていただき、お考えをお聞かせください。委員はいかがですか。

○委員

住環境は「安心に暮らしていける」というキーワードに基づく対策が必要です。守口市は防犯カメラをかなり整備したという記事がありました。それも1つの対策だと思いますが、イメージの部分が大きいです。守口市は犯罪率が特別高いわけではないのに、犯罪が多いというイメージをもたれています。空き店舗が多いことから、犯罪や火事のリスクがあると思われています。金融関係から地域を見ると、そのようなことだと思います。

私が住んでいる千里中央でも自転車で暴走する人はいますが、委員からもあったように、守口市の地下道は自転車が非常に多いです。高校生が多く、いつもぶつかりそうになり、警察は何を見ているのかと思うこともあります。あちこちに「自転車は車道寄りを徐行しましょう」という掲示は出ています。これは、警察の問題かもしれませんが、自転車については、学校に周知するなどの対策を講じれば、かなり安心感につながると思います。そのような観点はあると思います。

◎委員長

前回の会議で自転車の話が出たため、会議後に守口市駅周辺を見て回ったところ、駐輪場が物理的に足りないという印象をもちました。放置自転車があると、駅前が汚れていて、整理されていないという印象になり、イメージが悪くなることを実感しました。お金がかかることなので、急にできるかどうかは分かりませんが、自転車が地下道を走り回ることについては、物理的に工夫が必要だと思います。そのような対策をすると、かえって不便になって好ましくないでしょうか。

○委員

物理的な規制は必要です。どのような手を講じても、走る人は走りますが、様々な標識を整えるなどの啓発を行うことで、若干ではありますが、数は減ってきています。ただ、なくなることはありません。物理的な規制はあったほうがよいと思います。

◎委員長

東京の池袋は地下道が危ないと思っていました。ところが数年前にそこにポールを沢山立てて、自転車は押して通らざるを得なくなっていました。歩行者はまったく問題ありませんが、自転車は少し通るのが厳しくなりました。しかし、結果的に雰囲気はかなりよくなり、明るくなりました。物理的なものは、結構効果が出ることがあります。

○委員

私は高槻市に住んでいますが、JR高槻駅の地下道は狭いので、誰も自転車に乗っていません。自転車に乗ると、誰が見ても人にぶつかります。大日は広いので、乗りたくなる気持ちも分かります。それを物理的に規制するという方法論もあると思います。そのようなことをやっているということを前向きに伝えることが、イメージアップにつながります。次元の異なる策を行うことでよくなることもあります。

◎委員長

東京新聞で、池袋でブロックのような塀を作って、保育所の子どもが定期的にお絵描きをしたことで、かなり雰囲気が明るくなり、子どもも遊べるようになったという記事を見ました。このようなちょっとした工夫も必要かもしれません。近所の人がそこに行ける雰囲気にしなければ、いくら策を講じても、安全ではない印象になります。意外にちょっとしたアイデアで効果が出るかもしれません。

○委員

見た目のイメージは大きいです。まちに降り立ったときに感じるものが非常に大事です。さわやかさ、すっきりしているという印象づくりが必要だと思います。

○委員

守口市駅からここに来るまでも、自転車が歩道を優先して通っており、歩行者が自転車が通り過ぎるのを待っています。それが普通になっているのはどうかと思います。市役所に自転車に来る人も多いと思うので、市役所周辺や駅前だけでも自転車道路を整備したり、歩道を作るなど、ポイントポイントで手掛けてはどうかと思います。

駅前の地下に駐輪場を作っているというのをテレビで見ました。お金はかかっています

が、自転車を置けば自動で入っていくような、簡単に自転車を収納できるシステムになっていました。このようなものが1つでもあれば、かなり話題になります。自転車は便利なだけに、使わざるを得ないことは分かるので、何とかならないかと思います。

また意識面も重要です。私も門真市で毎日地下道を通りますが、小学生の列に突っ込みそうな勢いで自転車が走っています。「自転車を降りて通行してください」という掲示がありますが、まったく守られていません。環境整備も必要ですが、意識改革も必要です。

防犯カメラについてですが、他市では、防犯カメラに対する反対意見もあります。監視される気持ちになることと、個人情報的なものが残されるのではないかということです。防犯カメラがあることで、かえって不安感をあおるのではないかという意見もあると聞きました。守口市ではどうなのかと思います。

大阪府では、自治会に助成している市も結構ありますが、防犯カメラまで設置しなくても、防犯灯を増やすことで暗がりをなくすことからやってもよいと思います。

◎委員長

公園や防犯灯の維持管理について、行政が行うのではなく、町内会が担うことで、うまくいっている地域もあるようです。町内会によっては、維持管理を任されても十分に対応できない地域もあるかもしれないため、単純にはうまく進まないかもしれませんが、町内会に防犯灯等の維持管理を任せるということも考えられます。

○委員

よい意味で競争して、隣の自治会が非常に明るい、自分の自治会は暗がりが多いという状況を改善するようになって、相互にレベルが上がっていけばと思います。

◎委員長

西洋人は、自分の住んでいるまちの価値が上がると、不動産を転売する際に得になるということで、一生懸命するようです。しかし、日本人はそのような感覚は少ないです。西洋では、変なことをすると周囲からかなり叱られます。

○委員

市民まつりでも、京阪百貨店と駐車場の間の真ん中の通路に、自転車がかかり連なっています。行き来が大変だと、まつりも楽しめません。毎週日曜に、京阪百貨店の周囲に自転車が埋め尽くされているのを見ると、うんざりします。百貨店のこともありますが、駅前の駐輪場の問題は重要です。

守口の駅前もいろいろなところで駐輪場をつくる動きがあり、駐輪場が沢山できていますが、止めることができるのに、止めない人も多いです。百貨店の駐輪場に空きがあるに

もかかわらず、入口の横に止めたりしています。そのような人に駐輪の指導をしています
が、直接注意することも重要です。自分たちのまちは、自分たちで大切にしていかなければ
ならないという住民への社会教育も重要になると思います。

きれいなまちをPRすることで、市民が「自分のまちはきれいなのか。それでは汚さな
いでおこう」という意識になるかもしれません。汚いところはすぐに直すことが重要で、
散らかっていると、「もっと散らかしてもよい」という意識になります。初期的な整備を重
点的に行うことが、きれいなまちにつながります。きれいなまちをPRすることで、「きれ
いにしなければならない」という意識が刷り込まれると思います。皆が「汚いまち」と思
うと汚いまちになります。そのようなことを手がけていくことも重要です。

◎委員長

商工会議所の立場で、委員はいかがですか。まちをきれいにすると、お客様が集まり、
結果的に儲かるということはありませんか。

○委員

きれいになることと儲かることは別問題だと思います。商工会議所で市民まつりを開催
していますが、先ほど委員からご指摘があったように、自転車が多く止まっていると通り
にくく支障が出るため、駅前にきれいな駐輪場があればよいと思います。

◎委員長

ずっと住まわれている委員はいかがですか。

○委員

駅前は様々な人がアクセスするので、花壇を作るなどで、きれいなイメージの方がよい
です。もう一つ守口市の資源として活用していただきたいのが水です。守口市の水は高度
浄水処理がされて良質であると、以前に聞いたことがあります。守口市は、水に関しても
健康に気遣っていることをPRしてはどうでしょうか。

◎委員長

守口市は、よいことをしていてもPRしないので、好感度が47位と思わしくないのかも
しれません。

○委員

水は、健康にも美容にも大事です。守口市の水が良質であることは、意外と知らない人
が多いのではと思います。

◎委員長

水は健康の要になる重要なものです。

<魅力的なしごと・働きやすい職場を増やしていくことについて>

◎委員長

委員はいかがですか。

○委員

「稼ぐ力を高めるのはこれ」というものがあればよいのですが、簡単な答えはありません。住工混在の件で意見を述べたことがあります。工業と商業に分けて考えると、土地の問題はあるかもしれませんが、市で工業団地を1つ作るような策を打って、そこに入る中小企業に税制上の免除をすれば、稼ぐ力は上がると思います。工業については、すべての企業を全体的に上げていくことは難しいです。中小企業で有力な技術をもつところをいくつか引き上げ、そこから下請けの小規模事業者に仕事を下ろして、お金を調達するということが、もっともスムーズにいくと思います。有力な企業を引き上げるよう、工業団地に誘致する考えをもってもよいと思います。

商業については、先ほどから話題に出ている守口大根や歴史的資源を元に考えることも1つの案ですが、資源をゼロから集めた京都向日市激辛商店街のように、市とはまったく関係ないものを資源化して活性化することも面白いと思います。ただし、これも簡単にはできないものではあります。

◎委員長

以前民主党の仕分けの際に、コンピュータに関して蓮舂議員から「NO. 2ではいけないのか」という発言がありましたが、最初の言い出しっぺはよい思いをします。先ほど「今さらゆるキャラを作ってどうするのか」と述べましたが、むしろ守口市はゆるキャラを作らないことにしたほうが、取り上げられるかもしれません。守口市にはパナソニックや三洋電機などの大企業があり、その下請けが技術を磨いてきています。この辺りについて、金融機関ではよくご存知だと思いますが、委員はいかがですか。金融機関がオーガナイズすると、かえってうまくいくかもしれません。

○委員

金融機関がお手伝いできることと言えば、例えば、市内で設備投資をする会社があるとなれば、市と提携して制度融資を作り、金利を優遇する方法があります。ただし、信用組合や信用金庫などの地元密着の金融機関のほうが、そのようなサポートができるかもしれません。

○委員

金融機関は、市に企業が入ってくることに直接何かをするのではなく、金融面という側面から支援することが大事だと思います。地域経済として企業と一緒に仕事をさせていただくことで、金融機関も存続しています。前回は事業承継のしくみについて出てきましたが、われわれは、「お金が必要」、「後継者がいない」、「売上を増やしたい」などの様々なニーズをもつ事業所一社一社に対して、きめ細かく応えていくことがもっとも大事だと思います。企業が成長すれば、銀行にもメリットになります。

統計を取ったわけではないので分からないのですが、イメージ的に守口市はメーカー、不動産や建設関係の企業、地元で商売をしているところが多いです。そのため、銀行だけの問題ではなく、長い目で見ると産業構造をどうするかという問題があります。大阪市や大阪府は新しい技術に助成を行い、新しい会社を誘致する方向にあります。それが守口市としてできるか、大阪府と一緒にしなければできないかということがありますが、メーカーなり、IT関連なり、新しい産業に入ってきてもらうという考えも必要かもしれません。企業が入ってくると需要が膨らみ、守口市のGDPが膨らみます。そこに対して、金融機関が側面的な支援を行ったり、金融機関のお客同士で商売ができるようにするしくみづくりを行うのがよいと考えています。

住環境や子育てに次いで、産業ということで、パナソニックや三洋電機が中心になってきた守口市ですが、長い目で見れば、そこにプラスして、新しい産業によってここからさらに大きく発展していくような、企業を誘致するしくみを考えることも必要だと思います。

○委員

守口市の事業所の構成比は、製造業がかなり高いです。門真市も製造業が高いです。また経営者が高齢化しているところが多く、事業承継は喫緊の課題です。中小企業の中にはパナソニックや三洋電機の下請けだけでなく、そこから転換したり独自の技術をもっているところも多いです。放っておいて外部からM&Aで買い取られるのはもったいないです。後継者教育を行ったり、地域内の関連企業がM&Aをしたり企業買収するような、引き継いでくれるところを探すことはできないかと思います。後継者に一体的に、事業承継するために必要な知識や、税務面や法的面を教えてくれるところがあればよいと思います。マッチングの機会、業者同士の商取引のマッチングの機会や、技術を周知できるしくみがあればよいと思います。

一般市民に、守口市に製造業のイメージを出していくかどうかは別問題です。私が知る限りでも、安倍総理が言われたように、「こんな面白い企業があるのか」という、地場で特色をもつ工場がけっこうあります。そのようなところを何社かピックアップして、工場見学で市民に見せてもらえるような機会があれば、市民の理解も深まります。

商業については、中心商店街や駅前に賑わいがなければ、まちのイメージは上がりません。守口市には20以上の商店街がありますが、他県でも他市

でも商店街の問題を抱えています。何とか、空き店舗対策などの支援ができないものと思います。地域振興券を独自でやっている自治体もあると聞きますが、財政に関連するため、一概にどの市でもそれがよいと限りません。何か商店街を活性化する取組ができればと思います。

金融機関として見れば、創業も含めて他の地域で行っているのは、金融機関がそこに融資したものの信用保証協会の保証料をある程度市で援助するなどです。国の政策金融や、商工会議所のマル経融資などの政策的な融資について助成を行うことで、起業しやすくなるなどの企業支援を行っています。起業するための様々な情報を集めることができます。

創業については、門真市と守口市で創業ネットワークを作り、産学官と金融機関が集まっているところに様々な事業があります。行政が中心に行っているため、それを強化するということも考えられます。従来ベースの取組なので、あまり財政負担をかけずに支援ができます。

<守口の魅力づくりや魅力発信について>

◎委員長

ずっと住んでいる人には、かえって分かりにくいかもしれませんが、委員は不動産関連にもお詳しいですが、いかがです。

○委員

確かに情報発信の仕方は大事です。不動産物件は、どのような人をターゲットにするか、ターゲットに対してどのような言葉を投げかけたら響くのかというキャッチコピーが大事です。今後は、そのようなマーケティングが行政でも必要になると思います。市庁舎の各課から上がってくる様々な情報を、単に並べていけばよいということにはなりません。最低限の情報発信はしながら、強弱をつけて守口市がどの方向に進もうとしているのかをPRすることが必要です。各ライフステージで様々な局面に当たりますが、その時々で、守口市がその人に対して優しさをもっているかです。「どうぞ守口市に来てください。守口市には、皆様がこのような局面になったときに、このようなことができます」と、様々な面で手を差し伸べてくれることがあればよいです。大きなことでなくてもよいです。小さいことがたくさんあることで、かなりイメージができてきます。そこを狙っていくのがよいと思います。

◎委員長

後輩が近畿大学で副学長を務めているのですが、近畿大学はマグロで有名になり、今や全国から受験者が来ます。最近「近畿大学はマグロだけではない」と宣伝するほど、マグロが有名になっています。行政は、「守口市には、このようなよいことがあります」とたくさん書いてしまいがちですが、そうすると結局何がよいのか分からなくなります。一点

豪華主義で、これと思うものを1つ絞って表に出していく戦略も重要だと思います。東海道五十七次や水が良質などのポイントを1つ出してはどうでしょうか。最初から100個並べると、結局何もないことと同じになります。そのようなことも方針として、「これは自慢できる」というものを知恵を出していただきたいと思います。

議題2. 答申書について

●事務局

(「守口市まち・ひと・しごと創生委員会スケジュール」説明)

◎委員長

答申書は、第1回目、第2回目のご意見を中心にまとめていただいています。本日も活発に多面的なご意見をいただきましたので、それも付け加えて勘案して最終的な素案を作ります。皆様に確認いただき、追加すべきことや修正すべきことなどのご意見を踏まえて原案を作ります。現時点で、素案についてご意見がありましたら、お願いします。特にないようなので、事務局から説明のあったスケジュールに従って、進めさせていただきます。

今後のスケジュールは、年末までに委員会としての答申を作り、1月には市長にお渡しします。それを受けて、市は「守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(案)を作成し、パブリックコメントとして市民にも見ていただきご意見を頂戴します。その後、「守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を市で策定します。委員の皆様には、3月中旬頃にお集まりいただき、最終的なご報告をする予定です。

本日の議事録の署名委員は、宮本委員、石井委員にお願いします。

III. 閉会

◎委員長

本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。今後とも、よろしくお願いします。

以上